

(長岡京市) 自分ごと化会議 in 長岡京 第4回議事メモ

分科会	第3分科会
コーディネーター	石井 聡
ナビゲーター	なし
説明担当者(自治体)	自治振興室 赤松
日時	2020年 7月25日(日) 10時00分から12時30分
場所	産業文化会館 1階 大会議室
その他	参加者数 <u>17名</u> 欠席者数 <u>9名</u>

総括

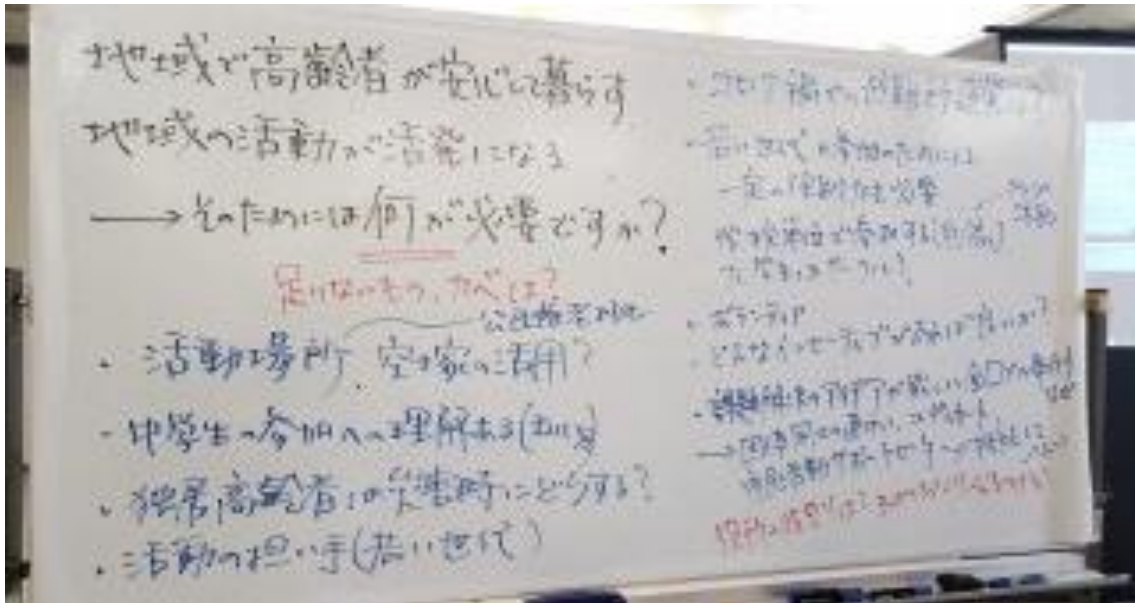
コーディネーター総括

- 前回に引き続き、高齢者が安心して暮らすために、地域と行政が連携して高齢者をどうやって支えていくかを軸に議論した。
- 地域コミュニティ協議会の会長さんから現状についてお話しいただいた。多くの人が地域コミュニティ協議会の役割をよく知らないという現状に対し、地域団体のコーディネート役だとの意見があった。
- 担い手が不足している現状の原因は、若い世代の地域活動への無関心さにあり、今回のような無作為抽出の市民による会議を継続して実施することで、地域のことを考えてもらうという議論を行った。

主な論点

- 論点① 地域コミュニティ協議会の役割について
- 論点② 地域の活動への若い世代の巻き込み方について

ホワイトボードの写真



## 協議の流れ

### ① 地域コミュニティ協議会の役割について

コ) 地域を良くするアイデアをいただくのは今日が最後となる。前回はコロナ禍での地域活動の状況や、高齢者のごみ出しを支えるふれあい収集の話をした。高齢者を支えるために、地域と行政がどうやって連携できるかを引き続き考えていきたい。

長岡京市では、小学校区を単位とした地域コミュニティ協議会がある。今日はまず自治振興室から地域コミュニティ協議会の概要をご説明いただき、そのあと長岡第十小学校区地域コミュニティ協議会の取り組みを紹介してもらう。

市) 地域コミュニティ協議会は市内全十小学校区のうち、八小学校区で設立されている。設立されていないのは神足小学校区と長岡第六小学校区。地域コミュニティ協議会は小学校区の住民だけでなく、各種団体、PTA、学校開放団体、総合型スポーツクラブ、民生児童委員などが集まって連携する場。構成団体は校区によって異なる。コミュニティニュースの発行、校区祭りの実施、防災訓練などは各校区共通でしていただいている。そのほかにも、五小校区では竹林を整備し、採れたタケノコを給食に提供している。七、八、九小学校区では、小畑川クリーン作戦を行っている。コミュニティニュースは校区内の住民に全戸配布している。

委) 長岡第十小学校区の会長をしている。まだ行事は他校区よりも少ない。去年はコロナの影響で校区祭りが中止となった。コミュニティニュースを市の広報紙と同時配布しているが、全員に読んでいただいているわけではないと思う。

十小事務局長) 令和2年2月に設立総会をした。コロナが流行りだした頃。体制を整える前に活動がストップしてしまったが、協議会の中心となる人はこれまでも地域で様々

委) : 委員、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

な活動をしていたので、助け合いながらできている。今できることはニュースやHPでの発信。今年度は感染対策をとりながら活動をしていきたい。

- コ) コミュニティ設立前は、校区のお祭りなどはどこが担っていたのか？
- 委) 長十フェスについては、体振とPTAが別々でやっていた祭りを協働で一緒にやることになった。その際に実行委員会を立ち上げていろいろな団体に入ってもらった。防災訓練は各地区の自主防災会がされていたものを、校区全体で行うことになり、各地区持ち回りで実施していた。コミュニティ設立後はコミュニティが主導する形になった。
- 委) 六小校区はコミュニティ協議会が設立されていないが、以前から六小校区には六連協(六団体連絡協議会)という協議会があり、六連協が地域コミュニティ協議会の役割を果たしている。
- 市) 神足小学校区も含めて、地域コミュニティ協議会がない地域が何も活動をしていない訳ではない。
- コ) 地域コミュニティ協議会は自治会のように会員、非会員というのはなく、校区内の住民全員が対象となる？
- 市) そのとおり。
- コ) みなさん地域コミュニティ協議会のやっている活動で知っていることは？
- 委) 第三小学校区のコミュニティ立ち上げから関わっている。自治会と連携しながらコミュニティが引っ張っていく形で各事業を行っている。防災訓練のときは炊き出しなど大規模にやっている。参加者は400名を超える。自治会未加入者も参加できるように考えて実施している。
- コ) 一つの団体だけではできないようなことを横の連携で進めていくイメージ。
- 委) 八小校区に住んでいる。地域住民から見たときに地域コミュニティ協議会が何をやっているのかが見えにくいのかなと感じる。自治会が最小単位だと思うので、自治会の活動が地域の皆さんからよく見えるようになって、それがコミュニティの活動につながるのが理想だと思う。防災の活動など、単独の自治会だけでは難しい取り組みを横断的に行うのがコミュニティとしての役割だと考えている。
- コ) 自治会と地域コミュニティ協議会は規模が全然違う。広域的な連携の場というイメージ。前は自治会の担い手不足の話が出ていたが、コミュニティの状況は？
- 十小事務局) 今のところは何とかなっているが、今後新しい人に繋いでいくのは難しいと感じている。校区にはすでにいろんな活動をしている団体が存在している。コミュニティの役割は地域の各団体のコーディネートをすることだと思っている。
- 委) コミュニティは自治会と同じなのかなと思っていた。引っ越してこられた方向けに、簡単にコミュニティとは何かを説明するお知らせがあってもいいのではないか。
- コ) 校区の防災訓練はどんな様子？
- 委) コロナ禍で避難所運営も変わる。炊き出しはコロナ禍で自粛しているが、炊き出しがあるから参加してくれている人も多い。
- コ) イベントだけは参加するという人は多い。若い世代の話も聞いてみたい。

- 委) 六小校区に住んでいる。小学生のときは毎年ながろく祭りに参加していた。運動会や清掃活動にも参加していたが、中学生からは参加しなくなった。親も担い手として参加していたが、大変そうでストレスになっていたのかなと感じる。
- 委) 神足小校区に住んでいる。祭りやイベントにはよく参加していたが、中学校になってからは参加していない。担い手が誰なのかというところは意識していなかった。
- 委) 八小校区。イベントに参加していたのは小学生まで。
- コ) 浜松市は地震が多いので防災意識が高い。防災訓練に中学生や高校生も関わっており、参加すると学校の単位になる。中高生に地域の活動に関わってもらえるように工夫することも可能かなと思う。
- 委) スポーツの関係でコミュニティに関わっている。活動は割り当てで回ってくる。負担に感じる面もあるがやってみると楽しい。コミュニティは頑張っていて活動されていると思う。
- 委) 一昨年の防災訓練は、その前回の防災訓練とほとんど同じ内容で実施した。今中心となっている人間がいつまでいるか分からない。であれば多くの皆さんに基本を覚えてもらおうという意図。
- 十小事務局長) 今までの防災訓練は役員がすべて準備をしていたが、実際の災害で役員がすべて準備をするのは不可能なので、準備をせずに参加者にやってもらった。現実に即した訓練に。また長十フェスティバルで炊き出しをしているが、それが災害時にも役に立つと考えている。子どもを巻き込むには学校の理解がいると思う。子どもたちが関心を持てば、親も関心を持つのではないかと思った。
- コ) 地域の方がお客さんではなくて、担い手として携わることで地域の活動としての厚みが出てくるのかなと思う。

～ 休憩 ～

② 地域の活動への若い世代の巻き込み方について

- コ) 地域の活動に若い方が参加するにあたって、障壁になっていることなどはあるか。
- 委) 活動する場所がないと思う。住んでいる地域は空き家が多いので、それを活用できればと思う。五小校区の防災訓練では、中学生が炊き出しなどに参加してくれている。コミュニティについて、雲の上の団体という印象を持っている。自治会のないところには何もしてくれない。元々やっていたことをコミュニティとしてやっているだけを感じる。独居老人の方は防災訓練には参加されないし、実際に災害が起こったときにどうしたらよいか懸念している。自治会がないので難しい。
- 若い人が参加すると活動のやりがいが出てくる。
- コ) 若い世代の方に関わってもらおうとアイデアや活動が活性化すると思うので、そういった仕掛けがあればいいと思う。

- 委) コロナ禍なので防災訓練の炊き出しはしていないということだが、コロナ禍で実際に災害が起こったら炊き出しはしないのか。必要だったら訓練もすることも考えるべきかと思う。
- 十小事務局長) 十小校区では今年度、避難所開設マニュアルを作る準備をしている。市のコロナ感染対策マニュアルも出ているので、その内容を踏まえるように考えている。飲食は感染リスクが高まるので、炊き出し訓練は行っていないが、コロナ禍以前にも炊き出し訓練は行ってきたので、本番で実施できるノウハウはあると考えている。配るときや食べるときにどうするかはこれから考えていかないといけない。
- 委) コミュニティセンターにプロパンガスを備えている。また小学校の家庭科室を使えることになっている。有事にはそういったものを活用して炊き出しを行っていく。
- 委) コロナがどれだけ続くかが分からないし、今はノウハウがあっても数年後はどうか分からない。実際にどれくらいの間隔を空けて食べるかなどのシミュレーションは必要だと思う。病院で働いているが、シミュレーションをしているからコロナ患者に対応できている。
- 委) 若い人に参加してもらうためには、最初は多少の強制力がないと厳しいと思う。周りが参加していないのに自分だけ参加するのは勇気がいる。授業などでの参加から、徐々にハードルを下げていくのがいいのかなと思う。
- 委) 若い人に聞いてみたい。どんなメリットがあれば参加する気になるか。お金や単位など。
- 委) お金がもらえるとか、単位がもらえるというのはいいと思うが、それで長続きするのかが疑問。メリットがなくなれば来なくなる。そもそもの課題である高齢者の暮らしを良くすることや地域の活動を活発にすることに繋がらないのではないか。また、若い働き世代は共働きが多く、PTAや学童の役員をされている方が多い。そこに地域の活動もとなると負担が大きい。役員の負担をどう減らしていくかを考えた方が地域の活動の活発化に繋がるのではないか。
- 委) 課題はたくさんあるが、解決のアイデアが浮かばないのが現実。後継者がいないとか加入率が低いなど。活動の場所がないのが大きな問題。空き家を活用して地域の人が集まることができればいいが。地縁の活動と市民活動団体の連携も課題。全国の先進的な事例がヒントになるかもしれない。
- コ) 市内の活動団体が集う場はないのか？
- 委) 市民活動サポートセンターがある。地縁団体と市民活動団体を繋ぐことが課題。
- PT) 行政としても若い世代をどう巻き込んでいくかは常に課題。認知症の高齢者の見守り事業を若い人に広げていくために、芸人さんと呼ぶと親子連れがたくさん来ていただいた。ハードルを下げる方法や仕組みを行政も考えていかないといけない。
- PT) 交通政策の部署にいた。自転車の安全教室を校区の祭りでやらせてもらっていた。どうしても市のやりたいことについて協力をお願いすることが多くなり、それが地域の活性化に繋がっているのかなと思うこともあった。

- 委) 回覧板を見ても、イベントの内容がよくわからない。長岡京市はどんどん都市化していて、街を歩いている人が顔見知りという状況にはない。同じ方が運営してやっていると広がっていかない。門戸を開くために、まずは人を集めて繋がりを作っていくことが大切なのかなと考えている。楽しさ、行ってみようかなと思ってもらうことが大事。
- コ) 長岡京市は交通の便が良いので、市外から移り住んで来られる方が多いと聞いている。そういった方が新たに地域の活動の担い手になることはあるのか。
- 委) 新しく加入していただける方は、前に住んでいた地域でも熱心に担い手として活動されていた方が多い。新しく引っ越された方に自治会の加入について声掛けをしても嫌な顔をされる方が多い。若い世代は特にそう。自治会を退会される理由で多いのは、「子どもが小学校を卒業したから」というもの。子どもが小学生の間はメリットがあるが、卒業後は必要性を感じない。マンションに住まれる方は特に繋がりを求めている方が多いのかなと感じる。
- 委) この会議は無作為抽出で選ばれている方が多く参加しているが、それぞれしっかりとした考えをもって話されていることに驚いている。無作為抽出をほかの活動にもあてはめて関わってもらうことを考えてみてもいいのでは。
- コ) 最後に改善提案シートを記入する時間を取って終了したい。次回は条例検討委員会に提出する提案書の案について議論をしていく。

#### 次回の分科会に向けた準備

#### 次回の分科会の目標

- 次回、提案書としてまとめたものについて、ご意見をいただく。